

海外

環境 農業 地域活性・まちづくり 教育・子育て 文化・芸術 福祉・保健・医療 人材育成・自立支援 国際協力 IT・情報化 社会的事業支援



世界にパンを届けよう

～パン・アキモの「救缶鳥プロジェクト」～

実施主体・組織

- 株式会社パン・アキモ
- 一般社団法人日本国際飢餓対策機構

プロジェクト概要

株式会社パン・アキモの独自の特殊製法により開発された「缶入りソフトパン」。「救缶鳥®プロジェクト」は、従来の「缶入りソフトパン」2個分が1缶に入っているダブルサイズの「救缶鳥®セット」を購入、その賞味期限3年間のうち2年間は購入者が自身の為に備蓄し、使用しなかった場合は飢餓問題に苦しむ地域・国へ食料援助として届ける仕組み。「防災備蓄」と「国際貢献」の2つのニーズを満たす。

課題

- ・防災備蓄食品の廃棄問題
- ・発展途上国の飢餓問題

効果

- ・購入者の国際貢献への意識向上
- ・企業・団体が「●●救缶鳥®」として参画、CSRの広報に利用

備蓄食品のリユースシステムで、世界の飢餓地域へ美味しいパンを!

阪神大震災の被害者の声をもとに、株式会社パン・アキモでは、独自の特殊製法により缶を密閉したままパン生地を焼き上げることで、3年もの長期にわたり、やわらかくておいしい状態で保存できる「缶入りソフトパン」を開発した。そのユニーク性と美味しさの評価で、多くの企業・自治体・学校などで防災備蓄品として利用されている。しかし、防災備蓄食であるが故に、賞味期限(3年)まで保存されたものは、処分廃棄されることが運命づけられている。

ある日、スマトラ沖大地震の被災地のひとつスリランカで働く日本人学校の関係者から、「缶入りソフトパンを、売れ残ったものでいいので義捐物資として

送って欲しい!」という連絡が入った。もともと「もったいない運動」に感銘を受けていた代表の秋元義彦さん。美味しいパンを食べたいという海外被災地のニーズ、捨てられてしまう日本国内の防災備蓄食の廃棄問題2つを同時に解決できるシステムとして、「備蓄食品のリユースシステム」を構築した。当初は対象顧客として大量購入可能な大手企業や自治体を予定していた。しかし、「個人でもできる小ロットのシステム」に改良すれば利用者はたくさん出てくるのでは、というアドバイスがあり、個人でも参加できる「救缶鳥®プロジェクト」が生まれた。

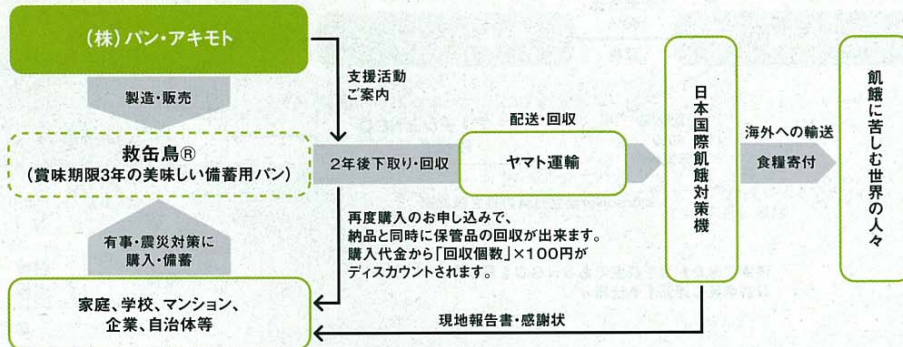
最近では企業・団体がCSR活動として参入するケースが増えてきている。今後



救缶鳥セット1缶で2食分

はパンだけでなく、他の防災備蓄食や備蓄水なども開発する。日本の新しい備蓄食のあり方と、国際貢献の一つになることを期待している。

ビジネスモデル



POINT

- NGOスタッフの仲介により関税が免除される仕組み
- 購入者からの賞味期限前のタイムリーな回収の実現
- 大手運送会社との連携で下取り回収・代金決済を簡略化